

特集

# 純情産地確立 「絆」プラン 平成26年度取組状況



## I.はじめに

今次3か年計画の重点施策である「純情産地いわての生産基盤維持・拡充」対策の具体策として、販売7品目において、行動計画のロードマップを策定し取り組み2年が経過しました。本年度までの取り組み状況と27年度の取り組みについて報告します。



副本部長  
畠山 俊彰

季節をめぐる  
四季折々  
「二月」



二月の異名 | 如月(きさらぎ) / 初花月(はつはなづき) / 梅見月(うめみづき) / 雪消月(ゆきぎえづき)

2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2月の行事・祝日

3日(火)	節分
4日(水)	立春
11日(水・祝)	建国記念の日
14日(土)	バレンタインデー

新しい年が明け、早や一か月。夕暮れ時、あたりがまだ明るいことふと気づき、ああ日が長くなつたなあ、確実に季節は動いているのだなあと  
思う。日が昇り、日が沈む。夜が来て、朝が来る。  
「朝」という字は、「十月十日(とつきとおか)」という字が組み合わさってできている。それは、赤ん坊が母親のお腹の中にいた時間。いわば「朝」という字は「生まれる」「生まれ変わる」という意味があるようだ。  
つまり、私たちは毎朝、生まれ変わるチャンスを持って目を覚ます。前日、ちょっとしたもめ事や不安があったとしても、眠って目を覚ました朝は新たな気持ちで事に当たろう。後悔は引きずらず、朝起きるたび、生まれ変わった気持ちでその日を過ごす。より良く生きるヒントかもしれない。  
「一月往ぬる二月逃げる三月去る」というほど、何かと行事が多く駆け足で過ぎていくこの時期。忙しいを言い訳にせず、一日一日を大事に過ごしたい。

## 純情産地発 クラーラ vol.787

# KLARA

### 2015 2

タイトルのKlara (クラーラ) は、宮沢賢治の手帳にしろされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。



## contents

季節をめぐる 四季折々	02	農業勇士の熱き情熱「AGRICULTURE!」	08
特集 純情産地確立「絆」プラン	03	純情むすめ活動記	10
細胞イキイキ、老化を遅らす“応援レシピ”		NEWS ワイドアングル	11
「いただきま〜す!」	06	イーハトーブの担い手便り	14
みんなの分教場	07	純情人	15
		インフォメーション	15



		25年度実績	26年度計画	26年度見通し	27年度目標
米穀事業	米集荷数量	主食用+水田活用米穀 <sup>※1</sup>			
		150,599 <sup>ト</sup>	150,000 <sup>ト</sup>	154,750 <sup>ト</sup>	150,000 <sup>ト</sup>
園芸事業	野菜取扱数量	66,973 <sup>ト</sup>	80,447 <sup>ト</sup>	67,246 <sup>ト</sup>	90,022 <sup>ト</sup>
	花き取扱数量	77.3万ケース	86.6万ケース	79.2万ケース	100万ケース
畜産酪農事業	肉牛 <sup>※2</sup>	17,822頭	12,440頭	18,325頭	15,000頭
	肉豚	278,682頭	280,000頭	261,500頭	300,000頭
	和牛子牛	19,001頭	18,100頭	17,450頭	22,000頭
	生乳取扱数量	210,420 <sup>ト</sup>	207,200 <sup>ト</sup>	206,260 <sup>ト</sup>	218,700 <sup>ト</sup>

注) ※1 米集荷量は収穫年ごとの取扱数量  
 ※2 廃用牛の放射能検査屠畜実施による廃用牛増・県外から新規集荷など特殊要因により、扱い頭数が増加

## Ⅱ. 本年年度の取組概要

### 1. 生産基盤対策事業

支出見込み額 225百万円

### 2. 生産基盤維持・拡充への取組概要

(1) 各種生産基盤対策事業の推進について、各種研修会での紹介やパンフレット配布による活用促進を

積極的にすすめました。

(2) TACと事業部門が連携し生産基盤対策事業を利用した生産拡大の提案を実施しました。特に、モデル大型経営体を選定し、JAと共に訪問活動・生産拡大提案をおこなってきました。  
 (3) 絆プランの目標達成に向け、より効果的な対策とするため、生産基盤対策事業の見直し・具体的な推進方策(ターゲット生産者を絞ることで効果的な推進をおこなうなど)を策定しました。また、気象災害・流行性病害からの生産力回復に向けた各種対策を実施しました。

## Ⅲ. 平成27年度の取組み

### 1. 米穀事業

(1) 主食用米の集荷・販売の取組みに加え、「水田活用米穀」への取扱強化をすすめます。特に飼料用米への作付拡大に向けJA別目標数量を設定しJAと共に農家へ推進するとともに、集荷体制の整備を支援していきます。  
 (2) 販売対策については、実需者との「結びつき」を強化するとともに、その内容の「見える化」をはかります。

### 2. 野菜

(1) 農業改良普及員と連携した園芸産地ネットワークにより、生産課題解決に向けた取組みをすすめるとともに、園芸総合生産対策事業を活用し生産者・品目別にターゲットを絞って推進をおこないます。特に、実需者と連携した加工用野菜

の作付推進・周年出荷に向けた秋冬期出荷品目の拡大・水稲育苗ハウスを利用した全農オリジナル隔離ベット栽培の推進に取り組んでまいります。

### 3. 花き

(1) 生産拡大に向けて、①「りんどう新改植支援事業」の活用による増反提案、②長期予約相対販売の拡充など販売起点による産地づくり推進、③生産者収益の安定化に向けた買取販売や流通コスト低減の取り組み、④新規生産者獲得に向けた生産者戸別訪問の実施と集落営農への推進強化をJAと共に取り組んでまいります。

### 4. 肉牛

(1) 生産基盤対策事業については、今年度から取り組んでいる「黒毛和種肥育担い手生産基盤拡大対策事業」により担い手の規模拡大を重点的に支援してまいります。

### 5. 肉豚

(1) 引き続き、生産基盤対策事業により優良種雌豚の確保、高品質肉豚生産を支援してまいります。

(2) 実需者との結びつきを強め、安定的な販売を実現することにより、個別規模拡大を支援してまいります。

### 6. 和牛子牛

(1) 生産基盤対策事業については、今年度同様のメニューで取りすすめます。

### 7. 生乳

(1) 生産基盤対策事業は、重点的に畜舎増設を支援し、個別経営体ごとの乳用牛育成頭数の維持・拡大をはかってまいります。  
 (2) 獣医師による生産指導を強化し、生産性向上に取り組めます。

(2) リストアップした増頭意欲がある農家への関係機関(県、JA、関係機関)による個別巡回を継続し、増頭に向けた個別課題の解決をはかります。

(3) 本会の和牛改良センターを拡充し、和牛子牛の供給力を向上するとともに、引続き岩手県家畜改良事業を受託し、優良県有種雄牛の確保を支援してまいります。



# みんなの分教場

## 平成26年産米の 検査概況について

米穀部 集荷推進課  
技術主管  
伊藤 専一

表1 26年産水稲うるち玄米の等級比率(全国11月末現在)

地域別	等級比率 (%)			
	1等	2等	3等	規格外
全国	81.7	15.8	1.3	1.2
東北	91.5	7.5	0.6	0.4
栃木・全国1位	96.4	3.3	0.2	0.1
長野・全国2位	95.4	4.0	0.4	0.2
岩手	92.5	7.0	0.5	0.1

(農林水産省資料)

表2 水稲うるち玄米銘柄別等級比率(岩手県)

種類	銘柄	25産米比率	26年産米比率
水稲うるち玄米	ひとめぼれ	95.8%	92.5%
	あきたこまち	95.8%	94.6%
	いわてっこ	95.5%	89.6%
	どんぴしゃり	96.7%	92.9%
	かけはし	86.4%	41.2%

(農林水産省資料)

上川下流域域では、シラタ(乳白粒、心白粒、腹白粒)の発現が見られます。北部・東部及び北上川上流地域では、その他未熟粒が散見されました。加えて、産地によっては、イモシ被害による着色の発現が見られましたが、品質への影響は少ないものとなっております。

岩手県産米の初検査は、水稲もち玄米は昨年より2日早い9月9日、水稲うるち玄米は昨年より1日早い9月19日となりました。

水稲うるち玄米の検査概況(11月末現在値)は、1等比率が92.5%と前年同期の95.6%より3.1ポイント低いものとなっております。2等以下の主な格付け理由は、着色粒が53.6%、形質(心白腹白)が9.7%、形質(その他)が13.5%、胴割れが2.5%となっております。着色粒混入による落等は総検査数量比で、昨年の1.5%から4.0%、形質(心白・腹白)は昨年の0.2%から0.7%と増加しています。

品質概況は、降雨等天候不良の影響から、検査初期は青未熟や青死米が平年より多く見られました。地域別では、北上川下流域域では、シラタ(乳白粒、心白粒、腹白粒)の発現が見られます。北部・東部及び北上川上流地域では、その他未熟粒が散見されました。加えて、産地によっては、イモシ被害による着色の発現が見られましたが、品質への影響は少ないものとなっております。

最後に、26年産米の検査では、米政策の見直しにより、検査に関する種類に「飼料用もみ」「飼料用玄米」が追加され、26年産米より検査が開始されました。また、日照不足、低温傾向の影響による、乳白粒、心白粒、腹白粒や青未熟死米の混入が見られるなか、生産者等の適切な品質調整等の努力により、「安全・安心」、うまい米づくり運動が推進されました。さらに、米の流通段階では、消費者実需者の食品に対する「安全・安心」への関心が強いものとなっております。

米を取巻く環境は毎年厳しいものがあります。JAグループとし適正かつ公平に農産物検査を実施し、今まで積み上げてきた岩手県産米に対する信頼を失わない取り組みが重要です。農産物検査での法令遵守はもちろんのこと、「調整・検査・保管」の各段階での更なる細やかな対応をお願いし、平成26年産米検査の報告とします。

平成26年産水稲の都道府県別作柄は、北海道は天候に恵まれ、東北から関東は概ね天候に恵まれたことから、全国の仕事指数が「平年並み(100)」であることに對し、東北は「やや良(105)」、岩手も5年連続の「やや良」となっています。一方で、東海以西は低温・日照不足の影響から、近畿の「やや不良(98)」に代表されるように、平年を下回っています。

全国段階水稲うるち玄米の農産物検査概況(11月30日現在)は、1等比率が81.7%と前年同期の79.6%より2.1ポイント増加しています。

2等以下に格付けされた主な理由は、心白腹白が26%(前年30%)、整粒不足が21%(前年18.3%)、充実度が20.9%(前年19.0%)、着色粒が17.4%(前年15.8%)となっております。

岩手県産米の初検査は、水稲もち玄米は昨年より2日早い9月9日、水稲うるち玄米は昨年より1日早い9月19日となりました。

水稲うるち玄米の検査概況(11月末現在値)は、1等比率が92.5%と前年同期の95.6%より3.1ポイント低いものとなっております。2等以下の主な格付け理由は、着色粒が53.6%、形質(心白腹白)が9.7%、形質(その他)が13.5%、胴割れが2.5%となっております。着色粒混入による落等は総検査数量比で、昨年の1.5%から4.0%、形質(心白・腹白)は昨年の0.2%から0.7%と増加しています。

品質概況は、降雨等天候不良の影響から、検査初期は青未熟や青死米が平年より多く見られました。地域別では、北上川下流域域では、シラタ(乳白粒、心白粒、腹白粒)の発現が見られます。北部・東部及び北上川上流地域では、その他未熟粒が散見されました。加えて、産地によっては、イモシ被害による着色の発現が見られましたが、品質への影響は少ないものとなっております。

品質概況は、降雨等天候不良の影響から、検査初期は青未熟や青死米が平年より多く見られました。地域別では、北上川下流域域では、シラタ(乳白粒、心白粒、腹白粒)の発現が見られます。北部・東部及び北上川上流地域では、その他未熟粒が散見されました。加えて、産地によっては、イモシ被害による着色の発現が見られましたが、品質への影響は少ないものとなっております。

最後に、26年産米の検査では、米政策の見直しにより、検査に関する種類に「飼料用もみ」「飼料用玄米」が追加され、26年産米より検査が開始されました。また、日照不足、低温傾向の影響による、乳白粒、心白粒、腹白粒や青未熟死米の混入が見られるなか、生産者等の適切な品質調整等の努力により、「安全・安心」、うまい米づくり運動が推進されました。さらに、米の流通段階では、消費者実需者の食品に対する「安全・安心」への関心が強いものとなっております。

米を取巻く環境は毎年厳しいものがあります。JAグループとし適正かつ公平に農産物検査を実施し、今まで積み上げてきた岩手県産米に対する信頼を失わない取り組みが重要です。農産物検査での法令遵守はもちろんのこと、「調整・検査・保管」の各段階での更なる細やかな対応をお願いし、平成26年産米検査の報告とします。



豆乳鍋  
1人分  
161 kcal

## 風邪予防&冬の活力源に 寒締めほうれん草の 豆乳鍋

材料(4人分)  
豚ももスライス240g、豆腐半丁、寒締めほうれん草200g、白菜200g、にんじん120g、大根100g、シメジダケ40g、エノキダケ40g、豆乳600g、白だし40cc

作り方  
①材料を適宜切る  
②鍋に豆乳と白だしを入れ、煮立ったら①を入れて煮る  
※市販の「豆乳鍋の汁」を使うと、お手軽。食べる時に好みで、しょうゆ・ポン酢やユズこしょう、レモンをかけても美味しい。

栄養ポイント  
ほうれん草は緑黄色野菜の王様。カロチンはピーマンの10倍、トマトの8倍で、1日の必要量はほうれん草のおひたし1人前でまかなえる。ビタミンCは100g中、60mgと多く、さらに夏採りに比べて冬採りのビタミンCは3倍多い。カリウムやカルシウムも多い。ほうれん草の緑色はカロチンの黄色とクロロフィルの青色が合わさったもの。クロロフィルは血液中のLDLコレステロールを強力に低下させ、HDLコレステロールを増やす。ほうれん草は葉酸が豊富で造血作用があり、これが欠乏すると悪性貧血になるといわれる。抗がん作用もある。結石の原因になるシュウ酸を微量に含むが、生で多量に食べないかぎり問題はない。鉄分をより良く吸収するために、適量の動物性タンパク質も必要。

【寒締めほうれん草のサラダ】材料(4人分)…寒締めほうれん草240g、わかめ10g、カニかまぼこ40g、すし酢大さじ1、ごま油小さじ1  
【寒締めほうれん草入りパウンドケーキ】材料(18cm/パウンド型1本分)…ホットケーキミックス150g、寒締めほうれん草100g、ヨーグルト50g、卵1個、砂糖大さじ3、牛乳大さじ1、ベーキングパウダー小さじ1

寒締めほうれん草の特徴  
株は「寒締め」により、やや開いている。葉の形は少しでも多く日光に当たるように地面に張り付くように広がっている。自分の身を寒さから守るため葉は肉厚で、その表面には縮れたような凹凸のしわがある。濃い緑色の葉には糖分をため込んで増した甘み(うまみ成分のアミノ酸含有量やビタミンCが上昇)が凝縮されている。えぐ味の原因となるシュウ酸の含有量は、地温の低下によって代謝が少なくなることから減少。



肉厚な葉の食味、濃い甘み、高い栄養価  
岩手の寒さが生んだ「寒締めほうれん草」

「寒締め」とは、収穫間近になった葉を外気温5℃以下の寒気にわざと当てる栽培方法です。寒い環境下に置かれた葉は、成長を止めて体内の糖濃度を高めようとします。つまり、寒さから身を守るための防衛本能により、水分を外に出して凍らないように葉に糖分を蓄えて頑張ります。このとき、ビタミンや鉄分などの栄養分がぎゅっと濃縮されることにより葉が縮まって肉厚になり、うまみや甘みが増します。この性質を利用して、岩手県にある東北農業研究センターが栽培開発したのが「寒締めほうれん草」です。当センターが冬場のハウス栽培を研究している過程で「育った後で寒さに当てたら、甘みが増すのでは？」と、試しにハウスの窓を開けたことがきっかけでした。そして平成12年頃、久慈地方で最初にほうれん草の寒締め栽培への取り組みが始まりました。

ほうれん草が日本に伝わってきたのは江戸時代の初期。現在、北海道から沖縄に至るまで全国各地で栽培されていますが、「寒締め栽培」によって生産されるほうれん草は東北などの寒冷地に限られ、収穫期間は12月〜2月の期間限定品です。甘くて栄養豊富な味の濃い「寒締めほうれん草」。その味と品質が評判になり、いまや首都圏にも出荷されるようになりました。

細胞イキイキ、老化を遅らす「応援レシピ」

しただきまほうす!



料理監修/高橋ヒサ子  
管理栄養士、健康運動指導士  
特定保健指導実践者  
いわて糖尿病療養指導士  
HACCP(食品衛生危害分析)指導者  
(公社)岩手県栄養士会理事



愛情と情熱が注がれ真っ赤に色づいたミニトマト



些細な変化も見逃さない日々の管理



茜さんの愛情がミニトマトをよりおいしくします

# 妥協しない農業

農家  
大住 正樹さん  
茜さん



農業勇士の熱き情熱

# AGRICULTURE!

就農したからには…

一関市藤沢町で仲良く協力し合って農業を営んでいる大住さん夫妻。正樹さんが藤沢町で農業を始めたのは29歳の時。きっかけは「祖父が農業に携わっていたことと、農業大学に通っていたこともあって…」と語り始めてくれました。

埼玉県農業大学を卒業した正樹さんは、農業先進地の北海道富良野市へ身一つで行き、農作業ヘルパーとして働き始めました。やがて、富良野で重ねた農業経験をもとに、藤沢町で本格的な就農を決意。ミニトマト栽培を始めました。そして、今やJAミニトマト部会の会長を務めています。

農業を取り巻く各種イベント活動にも協力を惜しまない正樹さん。農業体験を通しての食育活動の一環として、自分の畑に地元園児を招いて落花生の収穫体験を楽しんでもらったり、また、ある時は地元高校の農業研修としてミニトマトの葉摘みを体験してもらったりしています。それは、土が育む「力」をなるべく多くの一般の人たちにも体感してもらおうと、農作物への関心・興味を喚起したいとの思いからです。

これから就農する人たちには「農業はとてもしっかりと感得することが出来る仕事です。そこに魅力を感じてもらえばいいな」と。

理想は脇役ではなく、ミニトマトを主役に

農業の楽しさを「毎年の繰り返しなんですけど、同じ年はないですね。植え付けから収穫まで、それがちやんとできた時にやりがいを感じます」と正樹さん。一方、茜さんは「作業は忙しいですけど、作物の成長を見て感じ取れることに、楽しさややりがいを感じます」と、一児の母としての確かな視線で語ります。

ミニトマト栽培にかける二人の情熱は、消費者に対しても高度な要求が…。それは「ミニトマト自体は、いつも飾り／みたいな使われ方が多いですよ。できれば、メインとして皆さんに美味しく食べていただきたいな、って思います」。

もう一歩先へ

将来の夢について、正樹さんは「農業で生活できるレベルから、もう一歩先へ進むこと。農業をしっかりとした仕事として、これからの人も考えられるよう、生活できるだけでなく、他の業種と比べてもきちんと利益が出るような、そういう農業を目指して行きたい」と周りの人たちとよく話しています。語ります。また「夏場は仕事が忙しいんですが、冬になれば息子と遊んだり、一緒に買い物に行ったりして過ごしています」とも。

就農者として、夫として、父親としての、正樹さんの真摯な思い。そして、共に歩む茜さんの優しく温かな視線。二人の愛情をたっぷり注がれて育ったミニトマトが、主役になる日は必ずやって来る！そう思わせてくれた一日でした。



いつか食卓の主役への想いを込めて



JA全農いわては生産者と消費者を  
安心して結ぶ懸け橋になります。

今回のインタビュー内容はJA全農いわてウェブサイトにも掲載されています。  
詳しくはJA全農いわてホームページで。

### 首都圏でのいわて牛消費拡大へ

1月22日(木)・23日(金)

#### いわて牛の集い

いわて牛普及推進協議会とJA全農いわては1月22日、東京都のグランドプリンスホテル新高輪において、平成26年度『いわて牛の集い』を開催しました。

会場には、東京食肉市場関係者及び、買参関係者、県内生産者及び農協、岩手県関係者等が一堂に会し、盛大に執りおこなわれました。

翌23日には、東京食肉市場にて、第25回『いわて牛枝肉共励会』が開催されました。最優秀賞には、JAいわて平泉の佐々木信行さんの去勢牛が輝き、3,048円(561kg)で購入されました。

全体の上物率は98.4%で、平均販売単価は2,344円、平均販売金額は1,180,106円で取引されました。

上物率の高さにも表れているように、全体的に荷揃いがよく、年が明けてからも牛枝肉が相場高の中、首都圏における『いわて牛』の人気の高さを改めて認識することのできる活発な取引がおこなわれました。



いわて牛の集い会場の様子



いわて牛のブランド化に貢献された関係者に感謝状が贈られました

### 最新情報の共有で経営向上へ

12月16日(火)

#### 担い手経営力アップセミナー

JA全農いわて営農対策部は、県内農業の担い手支援の一環として「担い手経営力アップセミナー」を開催しました。

当日は、①飼料用米の安定生産と需給②鉄コーティング水稻直播栽培の最新動向について関係機関からの報告・講習がおこなわれ、27年産水稻作付と経営の向上・改善に向けたセミナーが開催されました。

セミナーには集落営農組織の役員や構成員などを中心に94名が参加しセミナー終了後には、飼料用米の安定生産、多収技術や栽培技術に関する質問が多く寄せられ、県内担い手の関心の高さが伺えました。



講演を熱心に聞くセミナー参加者



2014いわて純情むすめ

#### 四戸 藍

昨年の12月22日から30日まで、私はタイUFMフジスーパーでのりんご販売促進活動に参加させていただきました。バンコクにあるフジスーパー4店舗で岩手フェアは開催されており、売り場は、サンフジ、シナノゴールド、王林、金星、こうこう、5種類のりんごの香りでいっぱいでした。フジスーパーには、タイに住む日本人のお客さんも多

く、日本を懐かしんがせてしまった事もあり、私自身も悔しい思いをしました。タイ人のお客さんが来るとタイ人スタッフの方が手助けをしてくれましたが、それに頼りきりではせっかく海外に来て活動している意味が無いと思い、つたない英語と「甘み」「酸味」などの単語をタイ語で教えてもらい、積極的にタイ人の方に話しかけてみました。私のたどたどしい単語



### いわての美味しいりんごを世界へ! タイでPR活動



販売活動をする中で最も苦労したのは、日本語の通じないタイ人のお客さんに、りんごの美味しさや種類ごとの特徴を伝える事です。私はタイ語が挨拶程度しかわからず、お客さんにもどかしい思いをさせてしまった事もあり、私自身も悔しい思いをしました。タイ人のお客さんが来るとタイ人スタッフの方が手助けをしてくれましたが、それに頼りきりではせっかく海外に来て活動している意味が無いと思い、つたない英語と「甘み」「酸味」などの単語をタイ語で教えてもらい、積極的にタイ人の方に話しかけてみました。私のたどたどしい単語

ばかりの説明にもお客さんはきちんと耳を傾けてくれ、試食をして「アロイ! (おいしい)」と笑顔を見せてくれました。国を越えて、りんごの美味しさを伝える事が出来たと感じ嬉しく思いましたし、それ以上に、感動した瞬間でした。純情むすめの活動の中で一番嬉しいことは、岩手の農畜産物を食べた方に「おいしい」と言ってもらったことです。それは国内外問わず共通の事なのだという事を今回の業務では実感しました。今後も、岩手の農畜産物のおいしさを知ってもらい、岩手のファンがもっともつと増えるよう、一生懸命活動していきたいと思えます!



笑顔が  
はじける

純情むすめ  
活動記

## TAC活動のレベルアップをはかる

1月15日(木)

### 岩手県TACパワーアップ大会並びにJAトップセミナー

JA全農いわては、花巻市で平成26年度岩手県TACパワーアップ大会並びにJAトップセミナーを開催しました。これは県内TACの情報交換や優良事例の報告、表彰などをおこない、TAC活動のレベルアップとモチベーションの向上を目的に開催しており、県内TACや関係者72名が参加しました。

優良TAC表彰では、農業法人の園芸部門導入による経営安定をサポートした、JA新いわて 中軽米氏と、スマイルとうほくプロジェクトを活用し、レタス若手生産者の生産意欲向上に取り組んだ釜石氏が優秀賞に選ばれました。また、昨年12月に開催された全国TACパワーアップ大会の「JA表彰の部」で最高賞の全農会長賞に選ばれたJA新いわてと、「特別表彰の部」に選ばれたJAいわて花巻には特別賞が授与されました。

また、同日開催されたJAトップセミナーでは、農事組合法人となん 熊谷代表理事組合長から「農業法人からJAグループに期待すること」をテーマにした講演がおこなわれ、人と人のつながりを大切にしたい現場目線でのTAC活動の重要性の説明がされました。

【優秀賞】	特別賞
JA新いわて 営農経済部 中軽米 充	JA新いわて
JA新いわて 営農経済部 釜石 文雄	JAいわて花巻



受賞者の面々



講演をおこなう熊谷代表理事組合長(農事組合法人となん)

## 楽しく学ぼう「純情産地いわて」

12月12日(金)

### 純情産地キャラバン

JA全農いわては、盛岡市東見前保育園を訪問して純情産地キャラバンをおこないました。

これはJA全農いわてが農畜産物に興味の薄い子供達に対して、純情産地いわての農畜産物への理解と関心を深める、食育活動の一環としての取り組みで、今まで県やJAと連携しながら岩手県内の幼稚園や保育園にて活動をおこなってきました。

当日は2014いわて純情むすめの2人と、純情おにのじゅんき君が東見前保育園を訪れ、お米や野菜の紙芝居の読み聞かせや、食べ物なぞなぞをおこない、県産農畜産物への理解を深めました。



岩手の農業について紙芝居を通じて楽しく学びました

## 地域で愛される味を全国へ

12月22日(月)

### 気仙小枝柿新商品発表会

JAおおふなどは陸前高田市米崎町の総合営農指導センターで、気仙小枝柿の新商品発表会を開催しました。発表会には生産者、JA・全農関係者やこの取り組みを「復興応援キリン絆プロジェクト」にて支援しているキリンピールマーケティング(株)など47人が出席し、地域の新しい特産品の発表を祝いました。

気仙小枝柿は、古くから気仙地方で愛されてきた種なしの小枝柿を加工した干し柿で、上品な甘さが特徴で、生産者が熟練の技で作った干し柿から、色合いが良く大きい物を選別しています。プレミアム贈答用は、1箱12個(1個34g以上)4,320円。贈答用は、1箱15個(1個27~33g)で3,240円。



気仙小枝柿 プレミアム贈答

## 寒さなんか吹き飛ばせ! 県内小学生の各スポーツ大会が開催

JA全農いわては、子供たちの活発なスポーツ活動を食を通して応援し、健全な体づくりを支援するため様々なスポーツ大会に協賛しています。

12月7日(日)

### 第2回JA全農いわて いわて牛カップ S-1卓球グランプリ

JA全農いわて畜産酪農部は、県内小学生を対象とした卓球大会「第2回JA全農いわていわて牛カップ S-1卓球グランプリ」へ特別協賛しました。大会には総勢83名が参加し、元気ハツラツとしたプレーが見られました。上位入賞者へは副賞としてトロフィーといわちく商品の「いわて牛ローストビーフ」が贈呈されました。

【5・6年生男子の部】			【4年生以下男子の部】		
第1位	平賀 龍生	花卓ジュニア	第1位	照井 涼太郎	花卓ジュニア
第2位	福島 成亜	大野JTC	第2位	佐藤 颯太	花卓ジュニア
第3位	中嶋 楓希	AobaTTC	第3位	佐藤 遼太	花卓ジュニア
第4位	藤根 大輔	石鳥谷卓球スポーツ少年団	第4位	小田島 拓翔	石鳥谷卓球スポーツ少年団

  

【5・6年生女子の部】			【4年生以下女子の部】		
第1位	中里 莉彩	花卓ジュニア	第1位	小林 りんご	宮古Jr.
第2位	佐藤 瑠衣	若松クラブ	第2位	吉田 翔花	大和田クラブ
第3位	伊東 明香	若松クラブ	第3位	平賀 愛梨沙	花卓ジュニア
第4位	佐藤 琴実	一関卓心クラブ	第4位	照井 莉胡	花卓ジュニア



12月6(土)・7日(日)

### いわて純情りんご杯 第32回岩手県小学生バレーボール育成大会

JA全農いわて園芸部は、県内小学生を対象とした「いわて純情りんご杯 第32回岩手県小学生バレーボール育成大会」へ特別協賛しました。総勢97チームが参加し、日頃の練習の成果を競い合いました。上位入賞チームにはトロフィーと江刺りんごが贈呈されました。

【男子 一部】	
優勝	花巻バレーボールスポーツ少年団(花巻市)
準優勝	金ヶ崎VBC(金ヶ崎町)
第3位	見前南ビーバース男子(盛岡市) 常盤小バレーボールクラブ(奥州市)

  

【女子 一部】	
優勝	奥州胆沢バレーボールクラブ(奥州市)
準優勝	大船渡バレーボールスポーツ少年団(大船渡市)
第3位	竹駒VBSS(陸前高田市) 小友・横田バレーボールスポーツ少年団(陸前高田市)



1月10日(土)~12日(月)

### 第38回岩手県ミニバスケットボール交歓大会 いわて純情米選手権

JA全農いわて米穀部は第38回岩手県ミニバスケットボール交歓大会へ特別協賛しました。

大会には地区予選を勝ち抜いた、男子32チーム、女子32チームが参加し、真冬の寒さを吹き飛ばす白熱したプレーが見られました。参加者には「いわて純情米ひとめぼれ」のおにぎりや、県産牛乳などが配られ食の面から子ども達をサポートしました。

【男子 一部】		【女子 一部】	
優勝	山田男子(宮古)	優勝	雫石町(岩手)
準優勝	盛岡上田(盛岡紫波)	準優勝	中里きり(一関)
第3位	東水沢常磐(奥州) 石鳥谷(花巻)	第3位	松園イーグルス(盛岡紫波) 津志田ブルーウインズ(盛岡)



# 純情人

JA全農いわての  
じゅん じょう びと



畜産酪農部 畜産統括課  
まつだ ひでみつ  
**松田 秀光**さん(25歳)

**趣味・特技**  
温泉(特に露天風呂)、食べること、映画鑑賞

**現在の担当業務**  
主に豚の安定生産に関わる業務を行っています。その1つとして、豚流行性下痢(PED)という豚の伝染病があるのですが、その発生予防及び蔓延防止のためにPEDワクチンや消毒に関わる資材購入の一部を助成する事業を担当しています。また、毎月養豚関係者に送付している「養豚情勢」の作成も行っています。

**仕事を通して感じたこと**  
昨年度いわちくに入社して今年度より畜産統括課へ配属となり、昨年度の豚枝肉冷蔵庫内での業務とは今年度は業務内容が一変しました。しかし、日々の業務や生産者の方をはじめとする養豚に携わる方々と知り合えることで、生産から消費までの流れについて理解を深めることが出来ました。今後は業務を確実にこなしつつ積極的に農場に足を運び、さらに多くの知見を得たいと思います。

**数年後の自分を想像して**  
今よりも経験を積んで多くの知識を持ち、幅広く先を見越した視野を持ちながら効率よく業務をこなすようになっていきたいです。また、仕事を通して知り合えた方々とも良好な関係を築けたらいいなと思います。



**後編 編集集**  
年末年始いろいろ取材に何かせていただいた中で印象に残っているのが、大船渡でおこなわれた「気仙小枝柿」新商品発表会です。恥ずかしながら気仙小枝柿の存在を知らなかったのですが、気仙地方で栽培する小枝柿には種がないこと、この柿を使った干し柿が長年地域で愛されてきたこと、復興支援

で様々な企業の協力により商品化できたことなどいろいろ勉強させていただきました。試食させてもらった干し柿は、上品な甘さと風味を感じ、とても美味しく、子供の頃、実家の軒先に干してある干し柿を食べていた記憶をふと思い出す、優しく懐かしい味でした。  
(山本)

## INFORMATION ~お知らせ~

### 「いわての牛乳 ありがとうキャンペーン」開催!!

JA全農いわてでは、「日ごろのご愛顧に感謝!!これからも愛される『いわての牛乳』を目指して!」をコンセプトに、「いわての牛乳 ありがとうキャンペーン」を開催中!  
当選チャンスは2回。総当選数は390(サンキュー!)

- ♥**チャンス1**  
今大人気の商品やこの冬おすすめの景品が当たるチャンス!
- ♥**チャンス2**  
ハズレた人の中から、いわての乳製品、いわて牛セット等の景品が当たるチャンス!

■**キャンペーン期間**  
1月13日(火)~2月28日(土)まで

■**応募締切**  
2月28日※当日消印有効

■**応募条件**  
対象メーカーの牛乳パックに記載の「公正マーク表示部分」を10ℓ分(1ℓ=10枚、500mℓ=20枚)を1口としてご応募ください。  
※公正マーク表示部分の種類別名称に「牛乳」以外の名称が記載されているものはキャンペーン対象外です。

ご賞品に抽選(これからはもうおなじ)いわての牛乳を目標に!!

390口に抽選で当たる!

**いわての牛乳 ありがとうキャンペーン**

2013.1.13 ~ 2.28



法人役員とTAC



懇談の様子

**特定農業団体から農業生産法人へ**  
法人の前身である特定農業団体は、平成24年に法人化計画を更新して5年後の法人化をめざすことになりましたが、兼業農家が組合へ農作業を委託しており、主要3作業に加えて草刈等の管理作業も含めた全作業委託する農家が多く、このまま任意組合で運営することが難しくなってきました。また、若柳中部地区基盤整備事業の採択に向けた合意も済み平成27年度事業採択、平成28年度事業着工に向けて法人化の機運も一気に高まり、平成25年12月

法人役員とTAC

懇談の様子

「農事組合法人たなか」が所在している奥州市胆沢区若柳地区は、平成25年竣工の胆沢ダムの下流域で胆沢扇状地の要に位置しており、円筒分水工から流れ出た清流が寿庵堰と茂井羅堰を流れ下り胆沢平野を潤し、水稲や野菜等胆沢地域の農業生産を支えています。

同法人は奥州市の中心から西に9km地点に有った単一の農業集落をエリアにしており、経営安定対策の受け皿として平成19年に設立された特定農業団体田中集落営農組合が母体で、8年を経て農事組合法人へとステップアップされました。

昨年12月14日の設立総会を経て本年1月5日に登記されたばかりの新しい農業生産法人で、組合員40名、役員は理事7名と監事2名で初代の代表理事に阿部寿一氏(67歳)が就任、集積した52畝の農地の有効活用による水田農業の維持・発展を目的としています。

**特定農業団体7年間の経理の一元化や農作業の受委託の取り組みは、組合に対する信頼を高めるとともに農地の所有と利用の分離の考えが理解され、地域農業の担い手を確保・育成するためにも刻も早く法人化することが組合員で合意されました。農地中間管理事業の活用や農業改良普及センター主催の「営農組合の法人化講座」受講も経営者の決断を後押し、営農組合役員が発起人になり平成27年度経営開始に向けての法人設立と成りました。**

法人には集積した52畝の農地の有効活用と持続可能な集落営農体制づくりが課題であり、目論見書に有る野菜等の導入による複合経営の実践が

15日に法人設立準備委員会を立ち上げ、1年後の法人化と農地中間管理事業の取り組みをすすめて来ました。

特定農業団体7年間の経理の一元化や農作業の受委託の取り組みは、組合に対する信頼を高めるとともに農地の所有と利用の分離の考えが理解され、地域農業の担い手を確保・育成するためにも刻も早く法人化することが組合員で合意されました。農地中間管理事業の活用や農業改良普及センター主催の「営農組合の法人化講座」受講も経営者の決断を後押し、営農組合役員が発起人になり平成27年度経営開始に向けての法人設立と成りました。

法人には集積した52畝の農地の有効活用と持続可能な集落営農体制づくりが課題であり、目論見書に有る野菜等の導入による複合経営の実践が

**農事組合法人たなかの経営概況**

- 代表: 代表理事組合長 阿部寿一
- 設立: 平成27年1月5日
- 住所: 奥州市胆沢区若柳橋本154
- 組合員: 40名
- 営農規模: 農地集積面積52ha

**法人は地域農業を守り、担い手を育てる**  
「農事組合法人たなか」が所在している奥州市胆沢区若柳地区は、平成25年竣工の胆沢ダムの下流域で胆沢扇状地の要に位置しており、円筒分水工から流れ出た清流が寿庵堰と茂井羅堰を流れ下り胆沢平野を潤し、水稲や野菜等胆沢地域の農業生産を支えています。

同法人は奥州市の中心から西に9km地点に有った単一の農業集落をエリアにしており、経営安定対策の受け皿として平成19年に設立された特定農業団体田中集落営農組合が母体で、8年を経て農事組合法人へとステップアップされました。

昨年12月14日の設立総会を経て本年1月5日に登記されたばかりの新しい農業生産法人で、組合員40名、役員は理事7名と監事2名で初代の代表理事に阿部寿一氏(67歳)が就任、集積した52畝の農地の有効活用による水田農業の維持・発展を目的としています。

役員名刺

「農事組合法人たなか」の役員の皆様には、農地を守り次世代に地域農業を引継ぐためにも法人の生産及び財務基盤の早期確立をはかることが求められており、農協をはじめ全農の果たす役割が大きいと話されています。

組合員には農協関係者やOBもおりJA内での自由闊達な話し合いが不可欠であること、上部団体である全農等においても農業生産法人は一農家組合員でないことを理解して欲しいこと。経済のグローバル化の中で消費者は勿論のこと生産者も価値観が多様化しており、農業経営及び地域貢献に対する法人の責任を理解した中で、パートナー

## 「ふるさと未来へ翔ばたく」

純情産地の創造者たち

## イーハトーブの担い手便り

**農業生産法人の経営と地域貢献**  
「農事組合法人たなか」の役員の皆様には、農地を守り次世代に地域農業を引継ぐためにも法人の生産及び財務基盤の早期確立をはかることが求められており、農協をはじめ全農の果たす役割が大きいと話されています。

組合員には農協関係者やOBもおりJA内での自由闊達な話し合いが不可欠であること、上部団体である全農等においても農業生産法人は一農家組合員でないことを理解して欲しいこと。経済のグローバル化の中で消費者は勿論のこと生産者も価値観が多様化しており、農業経営及び地域貢献に対する法人の責任を理解した中で、パートナー



# 育ちを語る、 饒舌な味わい。

いわて牛の味わいは、正直に、饒舌に語ります。  
いわての美しく豊かな風土を。  
我が子のように戀しむ生産者の愛情を。  
育ちの良さが生み出した旨さ、いわて牛。  
類なき美味を、どうぞ、ご堪能ください。



いわて牛普及推進協議会  
事務局／岩手県農林水産部流通課内  
Tel.019-629-5735  
<http://www.iwategyu.jp/>



私たち全農グループは、  
**生産者と消費者を  
安心で結ぶ懸け橋**  
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組めます。

JA 全農いわて 総合企画課  
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145  
<http://www.junjo.jp>

